

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査  
第 3 回地域検討会（石川県） 議事概要

日時：平成 20 年 2 月 26 日（火）

10:00～11:40

場所：石川県地場産業振興センター 第 6 研修室

議 事

開会（10:00）

1．資料の確認

2．議事

第 2 回地域検討会議事概要及び指摘事項について〔資料 1、資料 2〕

概況調査結果概要について〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について〔資料 4〕

その他調査の進捗状況について〔資料 5〕

今後の検討事項について〔資料 6〕

今後の調査スケジュールについて〔資料 7〕

3．全体を通じたの質疑応答

4．その他連絡事項

閉会（11:40）

配布資料

資料 1 第 2 回地域検討会（石川県）議事概要（案）

資料 2 第 2 回地域検討会（石川県）での指摘事項に対する対応(案)

資料 3 概況調査結果概要

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要

資料 5 その他の調査の進捗状況

資料 6 今後の検討事項

資料 7 今後の調査スケジュール(案)

平成19年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（石川県）  
第3回地域検討会 出席者名簿

検討員（五十音順、敬称略）	
池田 幸 應	金沢星稜大学人間科学部 教授
泉 敏 克	羽咋郡市広域圏事務組合リサイクルセンター 所長
井上 卓 造	石川県土木部羽咋土木事務所 所長
浦上 豊 成	クリーンビーチいしかわ事務局 事務局長
川井 康 子	羽咋生活学校 代表
坂本 幸 彦	石川県農林水産部 次長兼水産課長
（代理 川原 伸一郎）	水産課 主幹
末平 幸 司	羽咋市建設課 課長
西 久 司	羽咋市環境安全課 課長
西川 孝 蔵	石川県環境部廃棄物対策課 課長
（代理 浜池 孝夫）	廃棄物対策課 課参事兼課長補佐
宮丸 克 巳	国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所 工務課 課長
山崎 正 幸	海上保安庁第九管区海上保安本部金沢海上保安部 警備救難課 課長
オブザーバー（所属機関名）	
環境省	
小野 寺 秀 明	環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 課長
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
内藤 治 男	環境設計ユニット
北村 徹	生物科学ユニット
常谷 典 久	HSE ユニット

**議題1 第2回地域検討会議事概要及び指摘事項について（資料1、資料2）**

質問・コメント等はなし。

**議題2 概況調査結果概要について（資料3）**

質問・コメント等はなし。

**議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について（資料4）**

- 1) St.1のコードラートの1番が水没したが、季節によっては波の水位が違ってくると、事前に予想されたか。事前に予想された。
- 2) コドラート調査結果で、生物系の漂着物、特に海藻が多いとあるが、季節的なものあるいは立地的なものがあるか。1年間通した調査となっていないので確定的ではないが、海藻に生活史があり、枯れて茎が海底から外れて流れ着くという時期があると思っている。
- 3) 対象ゴミのペットボトル、ライター、プイを全国レベルで集計しているが、石川の場合、サンプル数が非常に少ない。これからも継続的に取り組むと思うがどうか。現在、共通調査の枠内だけを集計している。これとは別途、枠外で集めている。サンプル数を増やして、データになるような形にしたいと思っている。
- 4) 今回の調査で、環境講座等を取り入れたが、作業効率に関して、作業に当たった婦人会や学生たちが、前回よりも動いているという雰囲気はあったのか。前回の反省で、作業をゴミの回収という形で説明した。今回は、興味を持たせて作業してもらったのが比較的よかったという気がする。
- 5) 現地調査時に石川県、福井県の海岸に木材が漂着した社会問題があり、また、2月にはポリタンクが日本の海岸に万単位の数で漂着している状況がある。それらが調査に反映されるか。木材の方は、我々の調査が終わった12月9日の夜に海岸に漂着していた。調査には全く支障はなかった。また、県の廃棄物対策課では、県内のポリ容器の漂着状況を市や町に調べてもらい、とりまとめて環境省に随時報告している。羽咋市でもきのう現在で、67個のポリ容器が確認され、市役所、広域圏で回収した。県内全部では1,120個のポリ容器が確認され、そのうちの1個に濃塩酸がほぼ満タンに近い状態で入っていた事例がある。第3回調査作業では、ポリ容器を発見したら、内容物の有無に関わらず、現場の責任者に知らせることとしたい。処分する立場では、ポリタンクは軽くて小型ですから、破碎をかける時、破碎歯の間にブリッジになり、空回りする状態になる。また、そのまま埋立処分場で埋め立てると、埋立地がふかふかになってしまい安定せず、非常に厄介なものである。
- 6) 石川県の海岸ゴミの量は、他の地点と比較すると少ないという結果であったが、海岸清掃等の活動や市民レベルの意識が高くて、その回数も非常に高いということが、結果に結びついているのか。全くそのとおりである。

**議題4 その他調査の進捗状況について（資料5）**

質問・コメント等はなし。

**議題5 今後の検討事項について（資料6）**

質問・コメント等はなし。

**議題6 今後の調査スケジュールについて（資料7）**

質問・コメント等はなし。

## 議題7 全体を通じての質疑応答

- 1) 今回の説明でも、少ない人数ですごく順調にはかどったようなイメージを受けた。これから参加者を減らす、あるいは、今までどおりにやっていくのか。 人数を減らす件に関しては、ビーチクリーナの効率にかかっていると思っている。地元の方には、ビーチクリーナが対応できないものを回収していただくことと、ビーチクリーナが集めたゴミを、瓶、缶、燃えるゴミ、海藻に分けるという作業が出てくる。 計画の人数と実際の人数というのは、実際にやってみないとわからないし、そのときの天候や漂流・漂着ゴミの状態によって全く違うので、十分な人数を確保した上での対応のほうが確実であると思う。
- 2) 一般傍聴者が、漁網等の非常に大きなかつ回収の難しいゴミに関する写真等をお持ちになった。委員の方々もぜひ見ていただいて、簡単にお話を伺いたい。 輪島市から来ました。奥能登の海岸沿いには古い網の塊がよく流れついて、この網はあまり浮いてもなく、沈んでもなく、大変船の航路にも支障をきたす。写真にあるとおり、海岸、砂浜ならばすぐ除去できるが、岩場の凹凸したところに網やロープが引っかかると、次から次へと来る漁網はたまって大変困っている。こんなこともこの検討会で審議して、その対策にも力をかしていただければ結構と思う。  
今回の滝も同じような状態で、岩場でかなり大きな冷蔵庫、洗濯機、レンジ、漁網が絡まっているという状態です。また来年度も検討会があるので、そのときに話をとりあげる。この検討会は一応2年であり、それ以降は地元、石川県全体として、その問題に関してはぜひ取り組んでいただきたいと思うので、情報発信をさせていただきたいと思う。よろしく申し上げます。